はじめてのしあい

二年　やすい　さとし

きのう、やきゅうのしあいだった。しあいのまえのフライれんしゅうでは、なにも見えなかった。しあいちょくぜん、はるとキャッチボールをした。ぼくの黒いグローブの中には、いい音で白いボールが入っていた。

しあいがはじまった。あい手のチームがまっすぐびしっとならんでいるのが見えた。ぼくがしゅびのとき、あい手のうったボールが「キャッチしてみろ」といいながらだんだん大きくなった。バッターボックスに入ると、あい手チームみんながぼくのことを見ていた。ぼくは、ボールだけを見て思いきりバットをふってファーストまでぜん力ではしった。みんなのはく手が聞こえた。